



紹介者：後列左から2人目

山の畑事務課

主事（補職）

採用年月 2008年4月

学部事務室での教務担当、病院での施設
管理・災害担当等を経て2023年7月か
ら現職

現在の担当業務

人文社会学部教務担当

思い出に残っている 業務上のエピソード

・苦勞した学生や留学生の卒業・修了が決まり、一緒に喜びを分かち合えたこと。忘れられない学生がたくさんいます。

・コロナ禍が残る、令和4年に学生たちの強い希望で中止していた薬学祭を再開。飲食の提供は自粛、まだ制限のある中での開催だったが、暑さの残るなか、1時間前から学区の皆さんが列をつくり待ってくださっていた光景が忘れられない。「地域に愛される大学」という言葉を実感として理解した得難い経験。

・関わった学生が教員・職員として帰って来たり、社会での活躍に触れる度、続けてきてよかったと思います。

名市大の魅力

・入職時に比べ大学・附属病院の規模は格段に大きくなり研究・教育で世界を目指す一方、学生と教職員の距離が近く、顔の見える関係、アットホームな雰囲気は変わりません。そんなグローバルな大学であることが強みだと思います。

今後の目標

・大変なことも多いですが、学部の事務は教育・研究・地域貢献という大学の全てに関わることができる最前線です。大学の基幹業務である、教育・学生支援にこれからも力を尽くしていきたいです。

名市大職員を目指す 方へのメッセージ

・急速に変化する社会にあって、大学に求められるものも日々変化しています。例えば少子化の波は大学の運営に直接影響し、大学も淘汰される時代です。一方、生涯学習やリカレント教育へのニーズは増加し、様々な背景を持つ学生が学んでいます。大学の知をどのように社会に還元していけるのか、大学職員には常に、こうした新しい課題に対し多職種と連携して取り組む姿勢が求められます。地道に真摯に、一緒に働いてくださる方をお待ちしています。